

北米の高校生がホームステイで宿泊交流



町でそれぞれ高校生を受け入れました。一行は期間中、神社の見学、お寺で座禅の体験、木工家具工場の見学、農業体験、剣道体験、アイヌ博物館見学、旭岳登山など、見学・体験が目白押し。また写真の町の本町では、全員にカメラ撮影の体験をもらったのもテーマです。

東川高校文化祭の前夜祭ねぶた行列に参加したり(18日)、ラトヴィア・ルーイエナ町から来町していた訪問団の高校生と東川中生徒との合同演奏会(19日)にも参加して充実の日々だったようです。

夏は晴れやか、町民体育祭



7月6日、町民運動公園で第30回町民体育祭が開かれました。

町内各地区の7老人クラブと各地区住民でつくる7チーム、合わせて14チーム、約500人が参加しました。

最後のトリを飾る競技は、なんと言っても全町綱引き競技。7地区それぞれに男女15人で1、2チームを編成しました。応援する声援にも力が入ります。

昨年優勝の「東川第三」チームが今年も強力で、綱引き競技の優勝は逃しましたが、他の競技では圧倒的強さを見せました。

会場のフィールド外では、それぞれの地区ごとに持ち寄った食材でジンギスカン、バーベキューコーナーも登場。お昼はおいしいおいが会場いっぱい立ち込めました。

ウォークラリー大会に約100人が挑戦

7月12日、町内中心部の公共施設を回り歩いて楽しむ公民館中央分館主催の東川町ウォークラリー大会がありました。

町内35組の家族、3人一組の小学生チームが参加しました。農村環境改善センターをスタート、ゴール地点に、豆腐店、郷土館、道草館など、中心市街地の約2.5キロ区間に15力所のチェックポイントを設けました。「ここだ、ここだ!」。参加したグループは、指示された道順にしたがってチェックポイントを通り、タイムを競います。

チェックポイントの回り方は、道路を行ったり来たり繰り返す。中心市街地は子供たちの歓声でにぎわいました。



「野菜生産者夏の集い」が農協野菜集出荷センターでありました

6月24日、東川町農協蔬(そ)菜園芸研究会(溝口泰男会長)主催の「野菜生産者夏の集い」が農協野菜集出荷センターでありました。

町内の生産者同士の交流の場として年1回開いています。3年目の今年は、町内の生産者約100人が集まりました。溝口会長は「今年の稲は5、6月の低温で分けつ遅れも目立っているが、野菜は順調に推移している」と報告しました。

札幌、旭川市内の卸売市場の野菜担当関係者も出席しました。市場値動きにつ



いて「本州方面の出荷時期と道内野菜の出荷時期が重なってしまい価格が上がっていない。消費者の価格選別の目も厳しい。今後の値上がりに期待している」と話し、生産者との情報交換をしていました。

この時期の本町出荷の主力はチマサンチュです。今年は価格が上がり「どうしても必要な野菜ではないので厳しい」という生産者からの声も。今後の値動きに期待を込め、日ごろ忙しい農作業の合間の手を休めていました。

平和の誓い新た―戦没者、開拓功労者慰霊祭

7月5日、町内市街地、「平和と開拓の碑」前などを会場に戦没者、開拓功労者をしのぶ慰霊音楽行進、慰霊追悼式が行われました。

先人の労苦をしのんで毎年行つて



います。音楽行進には、町内の3小・中学校から、児童、生徒のブラスバンド、カラーガード隊、幼児センター幼児のかわいい鼓笛隊が中心市街地約1.5キロ区間を行進。道の駅・ひがしかわ道草館前では第一小学校37人の一小太鼓が沿道から喝采を浴びました。

開拓の碑には、戦没者213柱、開拓功労者・物故者250柱を祭っています。開基114年を迎えた式典には、遺族、関係者約100人が参列しました。

合田博副町長が「先人の足跡に思いをはせ、活力あるまちづくりに全力を尽くします」と松岡市郎町長のメッセージを代読し、参列者は献花で先人を慰霊しました。

「東川町消防組合」の消防総会訓練大会

6月29日、大雪消防組合東川消防団(金盛勇松団長)が、東川小学校グラウンドをメイン会場に20年度消防総合訓練大会を行いました。町内5分団76人の団員と大雪消防組合東消防署員らが参加しました。

松岡市郎町長の閲団を受けた後、

小隊の隊列行進展示で、みごとな足並みを披露。ポンプ車を使ったすばやい放水・消火作業を展開する応用操法展示、市街地消火の一斉放水展示も披露しました。

きびきびとした連携で、有事の災害発生に備えた日ごろの訓練成果を

披露。見事な成果を町民にアピールしました。

最後に中心市街地約700区間を分列行進し、松岡町長、来賓らの観閲を受け災害への心構えを新たにしました。

